



2 二月にちは

秋山 藤・ひめさんご夫婦
(新 島)

「八歳と十二歳になる孫の成長が楽しみです」と目を細めながら話す秋山さん。これからも元気に毎日をお過ごしください。

お勤め先と家族をお
知えてください。「私は
町内の金融機関へ勤め
ています。農業をやつ
ている両親、祖父母、それに美容
師の妹、六人家族です」と話す伊
藤さんは、明るくほがらかで
旅行が大好きという。「年に一

今年金婚式を迎えた、新島の秋山藤さん、ひめさんご夫婦をお尋ねしました。

私も五時半には起きます。それから食事をして、八時か九時ごろで、とてもにこやかな夫婦で話かはすむ。「私の親が朝早かつたので、よく釣りに行つ

すね。歩いて部落をひと回りする
んですよ」と話す秋山さん。健康
には早寝、早起きと、
規則正しい生活、そし
て体を動かすことが一番いいとい
うことです。

野へ行つたんですが、台風のために、途中で帰つてきてしまいました」と少し寂しそう。今まで行つたところで印象に残つているところは、「ハイなんかもよかつたんですが、上高地の大正池が一番印象に残つて

スイスへ行きたい♪ 伊藤ゆき江さん（東）

す。今、ハウスのトマトを出荷しているところです。あと十日ぐらいすると、メロンが出来荷できるようですね」

十月に会社内の異動があり、新しい仕事についたばかりの伊藤さんは「ヨーロッパを旅行してみたい！」という夢を胸に、今日も仕事に情熱をもやしている。伊藤ゆき江さん、二十六歳。おむこさん募集中です。

考えられ、平素信仰していた栗島様の境内に納めたとのことです。板碑について歴史事典等には石塔婆の一種で常陸、房州、相模、武藏等で産する石で、秩父地方の緑泥片岩に類似するものを用いている。上部に太線を配し、その下に梵字、仏像、經文等を、さらに両側に年号記銘等が刻まれている。鎌倉・室町時代の建立が最も多く、主として、関東地方に見受けられます。

が「県などの専門的な調査を待つて、再び審議してはどうか」と答申されております。

芝の碑では一度も見かけません。右側の板碑はやや小さく（写真で間に白く見えるのは手帳）中央に梵字が一字刻まれているだけで、共に年号の確認はできませんでした。

形。その下には、梵字とも供花とも見える形がさらには台座か花瓶らしい図柄、左側に梵字、右側には、象形か合意(象形の進んだ字形)と

緑泥片岩に類似するものを用いている。上部に太線を配し、その下に梵字、仏像、經文等を、さらに両側に年号記銘等が刻まれている。主として、関東地方に見受けられる栗島様境内の板碑は、共に一〇センチほどの一厚さで、左の板碑は高さ約六〇センチ幅五〇センチ、上部は天蓋に似た両端に飾りの下つた

が「県などの専門的な調査を待つて、再び審議してはどうか」と答申されております。

横芝町にも数少ない、しかも鎌倉・室町時代に建立された公算のある板碑の歴史的存在が、関係者のお力によつて近い将来に、きっと確認されることと思います。

本稿収材にあたり、小関喜保氏のご協力とご指導をいただきました。案内図は省略いたします。



▲ 地蔵様とならぶ 2 基の板碑